

Change is チャンス! 「改善改革仕掛け人風雲記」

【第三話】 主婦の知恵に学ぶ

ジェムコ日本経営 高橋 功吉

主婦の仕事の中心は 「整理」・「整頓」

さまざまな企業でモノづくり革新の支援をさせていただくが、いつも感心するのは、パートなどで働いている主婦の皆さんの知恵である。

モノづくり革新活動を進める上で、多くの企業では、まず基礎工事として5Sを徹底することからスタートするが、この5Sの推進や、その後のモノづくり改善のアイデアで、主婦の皆さんからすばらしい案が出てくることが多い。なので、今回は、この主婦の知恵についてお話してみたい。

まず、5Sの最初に行う「整理」であるが、これは「現在の生産に必要なものだけをその場に置くこと」である。こうした内容は、男性より日頃から家事や炊事をしている主婦の皆さんの方が、理解が早い。

「料理をする時に、カウンターの上には、そのとき調理する材料しか出しませんね。煮魚を作ろうという時に、豚肉や豆腐やじゃがいもや人参まで出しますか？生産現場もそれとまったく同じですよ」と言えば、すぐに今の生産に必要なものだけになる。

これが男性だと、「煮魚の次に肉じゃがを作るかもしれないので…」などと屁理屈をこねるケースがあるが、主婦の場合は、調理するカウンターの

狭さを知っているのだから、そのような発言はまず出てこない。そして現場には、今の生産に必要なものだけが置かれることが多い。

さらに「整頓」（必要なものがすぐに取り出せ使えるようにする）は、3定（定位置・定品・定量）と表示・標識が基本となるが、これには、生活の知恵が大変役に立つ。

例えば、主婦の皆さんのお話を聞くと、食材を冷凍する際は、使う分ずつ小分けして冷凍する。そしてすぐに冷凍庫から取り出せるようにタッパーの色を変え、何が入っているか表示をする。

確かに、使う分ずつ小分けしてあれば、必要な分だけがすぐに取り出せ、さらに、タッパーなども色分けされ何が入っているか表示されていれば、冷凍庫を開けたままで探すということもない。

洗濯物を取り込む時も取り込みの順番があるそうだ。それは、たたくで収納する順番を考えて取り込むということで、これだけで、ずいぶんと時間の節約になるらしい。アイロンがけの必要なもの、そのままたたむものなど、これらを考えて区分けして取り込むことで、アイロン忘れや、収納するのに1つだけ残っていたということがなくなるのだ。まさに、次の作業の順番を踏まえて整頓しながら作業を進めるということである。

段取り替えは「衣替え」の要領で

さて、段取り替えをいかに短く行うかという検

討をしていた時のことである。外段取り（機械が停まる前に準備しておく）の重要性と、内段取りをどのように瞬時に行うかを議論していたら、ある主婦から「それは衣替えの要領と一緒にですね」という意見が出た。

彼女は、たたんでしまう服や下着類は、すべて同じ形の収納ボックスを使っているという。それぞれのボックスに、入れる服や下着を分けているのだが、すべて同じ形状のボックスにしているので、衣替えの際は、引き出しごと入れ替えるだけですぐに衣替えは終わるというのである。「生産現場の段取り替えも同じですよ」と、彼女からこの方法を現場に使うことを提案されたのである。

同様に、調理する場合も、コンロに火を点けてから食材を切るということはしないし、調理に必要となる調味料もすぐに使えるように、事前に準備をする。外段取りとして何をしないといけないかは、主婦の人たちを試してみれば日常生活で当たり前前にやっていることであり、「そのやり方を生産現場に取り入れると、どんなことになる？」と意見を求めると、次々と新しいアイデアが出て、現場改善も進むのである。

このように、主婦の人たちと話をしていると、日常生活の中で、見事に整理・整頓をしている事例が山ほど出てくるのである。他にも例えば、

①お風呂の掃除。毎日、最後に入った人がお風呂の掃除をしやすいように、風呂水を落とす際に、スポンジで掃除できるようにスポンジを浴槽の横に置くようにしている

②シャンプーや歯ブラシなどの毎日使うものは、すべて置く場所は決まっていて目を閉じたままでも取れる

③靴の置き方も、毎日履き変える順番に並べてある
などなどである。

主婦の日常生活での工夫は、改善の宝庫

これは、毎日の生活の中でいつのまにか整頓をしているということであり、この生活の知恵は、生産現場での改革のベースに十分になるということ



とである。同様に、清掃もいかに清掃しやすくするか、汚れないようにするにはどうしたら良いかという知恵も豊富である。

まさに、生産現場にこれらの知恵を持ち込むだけで、山ほど改善アイデアは出てくるのである。このため、主婦の皆さんと一緒に働いている職場は、改善が進みやすい。部門長は、これら主婦の皆さんに、彼女たちの頭脳をいかに現場の改善に活かすように働きかけられるかが、重要になってくる。

またそれとともに、男性も家事や炊を手伝ってみると、その中から色々なアイデアが出てくることを実感できるはずだ。今一度、皆で日常生活を振り返り、その中の生活の知恵を職場に持ち込んでみてはどうだろうか。そして、主婦の皆さんに、もっと知恵を出してもらおうような環境を作ってみてはどうだろうか。そんな取組みを進めることで、職場の改善がさらに進むかもしれない。

筆者：たかはし こうきち 取締役 グローバル
戦略担当首席コンサルタント

所在地：〒104-0061 東京都中央区銀座6-13-16
銀座ウォールビル10F

TEL：03-5565-4101

URL：http://www.jemco.co.jp